

## 宇野弘蔵『経済政策論』第1編「重商主義」

江原 慶

2015年1月15日

- 商品経済は、自らとは異なる社会関係を有する中世封建社会に対して「破壊的な分解作用」をなすものであり、自身で社会的再生産を把握できなければ衰退するほかない  
「労働力の商品化はまさにその根本条件をなす」
- 「商品経済の滲透」は、典型的な封建社会であるドイツ・フランスではなく、「各地に擁護されつつ徐々に発展してきていた生産方法を輸入し、採り入れたオランダ・イギリス」で、「農業と工業とが分離せられるという過程」として進んだ
- この過程は商人資本によって進められ、「重要な生産手段としての土地と直接的に結合されていた農民が土地を失うことを一般的前提として、農業と工業との商品経済的分離過程を通して労働力の商品化を国民的に一般化してゆく歴史的過程にほかならない」

### 第1章 発生期の資本主義

#### ■商人資本の分解作用

- 商品流通は一般的に商人の存在をともない、それは生産関係を問わない単なる仲介的取引によって価値増殖をなす資本である
- 商人資本は掠奪的性質を持つが、他方で「生産力の増進にも役立つ」のであり、生産関係を分解することになる。  
月国名：どういふ理由で 江戸名：生産方法の輸入？  
しかし「分解を受けた社会からいかなる生産関係が発展するかは、その社会が歴史的に形成してきた生産力の発展いかんにかかわることになる」のであり、中世は「労働力の商品化を一般的に実現する基礎を確保」した

#### ■重商主義段階の生産過程

- 「いわゆる問屋制度（家内工業）は、間接的にはあるが、生産過程に資本の支配力を滲透せしめる役割を演じた」  
それと同時にマニファクチュアも出現するが、それは問屋制度ほど支配的にはならなかった
- マニファクチュアも問屋制度も、それが発展すると農業を商品経済関係に引き入れる一方で「農業から全く分離しつつ、漸次に原料、道具、仕事場というように生産手段を喪失した生産者を広く農村を基礎として造出してゆく」
- マルクスが原始的蓄積といった封建領主による農民からの土地の収奪については「資本家的生産関係の形成、確立は、しかしそういう暴力的変革によって直ちに完成するものではなく、「直接の生産者と生産手段との分離の過程は、従来、農業と直接に結合せられていた、特に羊毛工業の工業としての独立化として具体的に実現せられる」

## 第2章 商人資本としてのイギリス羊毛工業

### ● 17,18世紀のイギリス羊毛工業

東部 梳毛工業、親方が家内工業を支配

西部 紡毛工業、輸出向けの大商人がクロージアとして家内工業を支配

北部 紡毛工業、独立手工業者中心

### ■西部

- クロージアは「原料を買い入れて生産に出し、検査をして製品を受け取り、それを仕上げで販売することがその仕事であり、間接的に使用する織手の数もかなり多かった
- それでも、原料である羊毛の取引方法については「著しく商人的であった」
- 紡績は農家の副業として行われ、生産性は低く、品質も不揃いであり、原料の着服も起き、「全く商人的な問屋制度」であった
- 織手は事実上クロージアから賃金を受け取る存在となっており、ギルドの親方のように徒弟制を持つものではなかった

### ■北部

- 18世紀はじめまで北部のクロージアは自ら織手であり、「ギルド職人のような独立手工業者としての地位を維持していた」
- しかし18世紀後半に生産規模が増大するにしたがい旧来の関係が崩壊していく
- 18世紀後半までは仕上げ工程を商人が担っており、織手は商人の支配下にあった
- しかし18世紀後半になると、仕上げ工程も担うクロージアが出現し、また新興の梳毛工業資本が台頭してきて、北部は19世紀のイギリス羊毛工業の中心となる

### ■マニュファクチュアの位置

- 羊毛工業手工業者のうち、仕上工は「問屋制度のもとにあつて部分的に発展したマニュファクチュア」を形成したが、それは「商人資本が羊毛工業の全過程を支配していく基点をなすもの」にすぎない
- 「むしろ17世紀から18世紀にかけての商人資本のもとに漸次に形成せられつつあつた資本家的社会関係は、手工業者を賃労働者化し、また部分労働者化しつつあつた」
- 商人資本は「マルクスのいわゆる本来のマニュファクチュアの時代がそれによって支えられるという「都市手工業と家内的・農村的副業」を、資本家的に支配する資本である」

### 論点・疑問点

#### ■「分解作用」「滲透」による段階規定について

商人資本が旧来の生産関係を「分解」するとか、商品経済が「滲透」というのは、その時代の傾向であつて、一定の状態を説明する段階規定にはならないのではないか。

ここでは、資本主義の段階の変化を描出するシナリオと、段階の規定そのものが混同されていないか。

月田：克勤的 生産様式 について (オ2章 2.3.1) の 年尾)

■マルクスの原始的蓄積に対する評価について

宇野は「資本家的生産関係の形成、確立は、しかしそういう暴力的変革によって直ちに完成するものではない」として、農民からの土地の収奪によるプロレタリアートの創出で以って資本主義の発生を画す見方を否定し、生産者と生産手段の分離は「羊毛工業の工業としての独立化として具体的に実現」とされる。農民からの土地収奪だけでは生産手段の分離が完成せず、羊毛工業でそれが「具体的に実現」とするというのはどういう意味か。

